

# むらかみ

# 元気マガジン

Vol.11

## 大沢峠石畳を歩く

一、よそは良く見える

自分の地域に紹介するものはない  
それは、うそ、慣れているだけ。

一、地域の人の協力が宝

街道を歩いている旅人を見かけると  
私に知らせてくれます、すぐ追いかけて  
お礼の言葉と案内をいただきます。

一、訪れた人達が応援団に

松尾芭蕉が歩いて三二六年、村上  
と庄ゆを結んだ。苔、おしな  
〝石畳〟と伝説、自然豊か

四季の魅力を満喫しながら  
ガイドで元気をもらっています。

出羽街道案内人大滝與志男

## CONTENTS

【特集】

地域を歩いて、  
魅力を再発見する

2

山辺里地区まちづくり協議会  
教育・環境美化・交流を  
兼ね合わせた大栗田2里ウォーク

3

たかね地区まちづくり協議会  
まちあるき大作戦全集踏破！

塩谷基地

塩谷をひとつにするガイドブック

4

山熊田集落  
自然を活かしたフナ林散策

平林城跡保存会

四百年前にタイムスリップできる  
平林城跡

5

村上を歩く取り組み紹介

6

雑感  
歩くだけで

地域の魅力は見つかるのか

7

面白い人・取り組み紹介インタビュー  
村上シャルソン実行委員長  
渡辺展生さんに直撃！

8

地域団体紹介

笹川流れ波物語り受入者協議会

特集

地域を歩いて  
魅力を再発見する!!

普段、生活していると何とも思わずに通り過ぎてしまう見慣れた景色。でも、ゆっくりと歩いて、いつもと違った視点で見つめてみると、そこかしこで素敵な宝物が見つかります。地域を歩いて、魅力を再発見する。そして、自慢できるような魅力が詰まった、自分の暮らす地域を好きになる。そんな機会を増やそうと、まちあるきやウォーキングなど“歩く”取り組みが数多く行われています。その一部をご紹介します。



教育・環境美化・交流を兼ね合わせた  
大栗田2里ウォーク

山辺里地区まちづくり協議会

6月、爽やかな風が吹く中で門前から大栗田までの2里(約8km)の距離を歩く「大栗田2里ウォーク」が開催されました。子どもたちの参加も多く、総勢61名での大イベントです。こちらの「歩く」取り組みの特徴は、ただ歩くだけで終わらないということ。袋を持ちながら歩き、道路脇や林の中に落ちていたゴミを拾っていくことで、普段車で通るばかりの道がきれいになり、地域の環境美化につながっています。また、参加している子どもたちのためにチェックポイントを設置し、そこで大栗田ウォークや、環境、まちづくり協議会についてのクイズを出すことで、子どもたちも飽きずに歩くことができ、加えて地域のこと

を学ぶ場となりました。山道を抜けて、ゴールとなる大栗田に到着してからは、手作りの豚汁とお漬物を食べて交流です。ここでもう一工夫。参加者だけで食べて終わるのではなく、子どものいない大栗田集落の皆さんとの交流ということで、子どもたちが豚汁を持つて、お家に配達に行きました。「こんなに大勢の子どもたちに会うことはないからうれしい」と涙ぐむおばあちゃんの姿もあつたそうで、子どもたちも大きな喜びややりがいを感じたことと思います。旧大栗田小中学校周辺の草刈りや体育館の清掃も行ったとのことで、様々な要素を組み合わせた「地域を歩く」活動です。



ゴミ拾いをしながら普段は車で通る森の中を歩きます。



ゴール後集合写真!子どもから大人まで達成感いっぱい。



旧大栗田小中学校体育館を清掃してきれいに。大勢で歩くと、それだけでも楽しそう。

たかね地区まちづくり協議会では、協議会を立ち上げた平成24年度からまちあるき大作戦「地域のお宝再発見」に取り組みはじめ、昨年度で高根地区八集落（岩沢・朝日中野・中原・黒田・関口・北大平・高根・薦川）すべてを歩き終えました。

まちあるきと聞くと、数多くのお店が並び、名所がいくつもあるような場所で行うものというイメージがあるかと思いますが、このまちあるきは、日頃自分たちが暮らしている地域を歩きます。普



まちあるきを行った後、魅力を感じた点を発表する。他の人の意見は、新たな気づきのポイントとなる。

## まちあるき大作戦

## 全集落踏破！

たかね地区まちづくり協議会

段見過ごしてしまふもの、話には聞いたことがあるけれど実際に見たことがないものに気付けられる宝探しのような時間です。どの集落にもあるお寺や神社も、そこに関わった人物や歴史について聞くと違った見方になり、山林や銘木、高台、家々、屋敷跡、路地裏、屋号からのいわれや景色など、足を止めることで発見できる「お宝」の数々は、参加された方たちの心に残るものとなっております。

今年度は、この取り組みの成果をまとめた冊子を制作しているとのこと。お宝の地図を手にしたがら歩けるようになりますので、是非、高根地区へ足を運んでみてください。



山ぶどう生産現場で説明を聞く。見たことはあっても、よく知らない。そんな場所も案内してもらおうと面白い。

## 塩谷をひとつにするガイドブック

塩谷基地（しおやベース）

塩谷基地（しおやベース）は、塩谷に住んでいる20代〜40代のメンバーで構成されている非営利団体です。自分たちが暮らす大好きな「塩谷」の情報を広く発信するとともに、塩谷の魅力を再発見し、これからの塩谷を考えるきっかけづくりをすることを目的として活動しています。

塩谷にある店舗の情報や方言などが詳しく掲載されたウェブサイトでは、塩谷の紹介はもちろん年配の方から聞いた話を記録として残すなど、文化の継承にも取り組んでいます。

そんな塩谷基地で昨年度制作したのが、「歴史薫る北前船と湊町商人の町屋 塩谷ガイドブック」です。歴史や生業の紹介、町屋のみどころ、年間行事の一覧など内容は盛りだくさん。塩谷の魅力がたくさん詰まっています。

塩谷基地では、買い物難民問題の解決と、塩谷のアンテナショップとして塩谷の物産販売を行うために「めでたや」というお店を毎週火・金曜に営業しており、ガイドブックはそちらで配布されています。

ます。ぜひ、このガイドブックを塩谷のまちあるきにご活用ください。

塩谷基地運営事務局  
村上市塩谷 1181  
E-mail: shioyabase@yahoo.co.jp  
URL: http://shioyabase.web.fc2.com/  
ぎょぎょかいめでたや（火・金曜日営業）  
村上市塩谷 1299-2  
TEL: 0254-62-7273





## 自然を活かしたブナ林散策

山熊田集落

雪深いマタギの里、山北地区山熊田。豊かな自然に囲まれ、山とともに生きる暮らしを伝承しているこの集落で、多くの人を虜にしている「歩く」イベントがあります。それが年3回開催されている「ブナ林を歩く」シリーズです。

春5月に開催されるのは、「新緑のブナ林を歩く会」。残雪を踏みしめながら歩き、光に透けてキラキラと輝く新緑と頬ずりしたくなるような真っ白な木肌が立ち並ぶブナ林を目指します。



残雪の上を歩いていくと、鮮やかな新緑が迎えてくれる。



長時間歩いた疲れも吹き飛ばすブナ林の美しさ。

大滝国吉・利枝子  
TEL:090-2244-1262  
FAX:0254-76-2801

秋10月の「紅葉のブナ林を歩く会」では色づいた木々の中でのこの汁を味わい、冬3月には「かんじきトレッキング」で、どこまでも広がる雪原の中、和かんだじきを履いて歩き、山が芽吹く力強さを感じます。それぞれの季節毎に表情を変える美しいブナ林を楽しむことができますが、早朝から険しい山道を往復4時間かけて歩かなければならず、決して気軽に行けるような内容ではありません。しかし、地元の人に案内してもらわなければ分からないような山奥で絶景に出会えるということ、そして、ブナ林の中で振る舞われる山の料理やマタギの話など、ここでしか体験できない「歩く」喜びを感じられる時間は、参加者の方にとってかけがえのないものとなっています。



田んぼの中に突然現れる緑の壁。山かと思間違うような圧迫感に、これが城跡かと思わず確認してしまうほど。色部氏の居城であった平林城は国指定史跡になっており、室町時代から慶長3年(1598年)まで続いた中世の山城および居館跡で、村上城のような石垣ではなく土を切り盛りして作られた「土塁」の城となっています。中世に建てられた戦うための城がこまで良い状態で保存されているの



平林城跡保存会  
(事務局：武者)  
TEL:0254-66-5038

は全国的にも珍しいそうで、地元の小中学生をはじめ、関西方面から一人で来た若い女性や、城巡りツアーの団体客など、全国各地から多くの見学者が訪れています。正直なところ、知識のない者が見れば不自然な盛り上がりや溝がたくさんある林です。しかし、ここにガイドの方のお話しが加わると一気に400年前の世界が見えてきます。「ガイド付きでなければ平林城跡を見学したとは言えない」と表現しても過言ではないほどです。「おらが村の殿様」という愛着を持って、勉強会を重ね、平林城跡の魅力を分かりやすく伝え続ける平林城跡保存会のガイドは無料ですので、歴史やお城に興味のない方も、平林城があった時代へのタイムスリップを体験してみてください。



## 400年前にタイムスリップ

平林城跡保存会

# 村上を 歩く 取り組み紹介

## 村上地域まちづくり協議会

### 城下町村上探検ウォーク

城下町の仕組みや文化、暮らしに残る名残などについて、ガイドブックを参考に学びながら、まちの魅力を再発見するイベント。平成27年のテーマは「城下町村上の宝・しゃぎり土蔵めぐり」です。



### 山居山・里山ハイキング

身近な自然、山居山へ約4kmのハイキング。昼食には季節の食材食育弁当が提供され、身体の内側と外側から健康づくりをするプログラムです。



### お地藏様スタンプリリー

村上地域でお地藏様があるお寺など6か所をめぐりスタンプを集めます。日頃行かないお寺にも足を延ばすきっかけとなっています。

### 城下町村上庭の会

#### 城下町村上春の庭百景めぐり

5月1日から1ヶ月の間、町屋寺、武家地区の庭・花・盆栽・山野草などを見学しながら、春の庭を散策する無料のイベントです。普段立ち入れないようなお店の中庭やお寺の奥にある庭園などを見ることができ、ただ見るだけでなく、お庭の成り立ちや植物について説明を聞くことができるのも魅力。



### 砂山地区まちづくり協議会

#### ワクワクお幕場ウォーキング

昨年度行われたイベント。袋に入った松ぼっくりの重さや数当て、

写真を見ながら撮影された場所を探すウォーキング、松ぼっくりを使ったオブリエ作りなど松林の中にあるものを活かした内容です。今年度は美化活動を行う予定です。

### 猿沢地域まちづくり協議会

#### 地域の魅力再発見！地域資源調査

地域や集落に昔からある自然・歴史・文化などの「地域資源」に再び光をあてると共に、新しい「地域資源」の発見・発掘を目的としたウォーキングで、各集落順番にまわりながら手作りのお宝マップを作成しています。

### 大葉澤城跡保存会

大葉澤城跡は大場沢集落（旧朝日村）のすぐ南側に位置し、東側山地から西側平地へ突き出るような小高い丘陵を利用した山城で、戦国時代に活躍した鮎川清長氏の本城と伝えられています。その城跡を守りながら、魅力を発信し、地域内外の人たちとの交流の場として活かしています。



### 出羽街道石畳の道プロジェクト

#### 石畳の道修復プロジェクト

日本の歩きたくなる道500選になっている出羽街道大沢峠。奥の細道で知られる松尾芭蕉が歩いた道を保全、修復する活動です。



### あらかわ地区まちづくり協議会 ECHIGO歩こう会

今年7回目を迎えたさくらつつみウォークは、4km、10km、15km、20kmの4つにコース分けされており、爽やかな春の風を感じながら荒川の桜堤を歩きます。荒川中学校の生徒さんたちも参加して参加者はなんと555名。道中は参加者同士の会話を楽しんで交流を深め、満開の桜の下で健康づくりに取り組んでいます。



## 歩くだけで 地域の魅力は見つかるのか

都岐沙羅パートナーズセンター 能登谷 愛貴



「地域を歩いて、魅力を再発見する」という特集記事に対して、果たして本当に歩くだけで『魅力』というものが見つかるのだろうか、ふと疑問に感じてしまった。

これが、京都の雅な石畳を歩くとか、横浜港町で海風を感じながら歩くというのなら、観光名所も多く、魅力的に思えるものが見つかるかもしれない。しかし、歩こうとしているのは、自分が暮らす場所。この地域以外は住んだことがないという人もいるだろう。どこを切り取っても見慣れた景色、目を瞑ってでも歩けるぐらい親しみのある土地。特に足を止めるほどのものもなく、車で家と職場の行き来をし、季節が巡り、

年を重ねていく。そんな生活の場に魅力があるのだろうか。

そもそも、魅力とは何か。とりあえず辞書を引いてみたところ「人の心をひきつけて、夢中にさせる力」と書かれていた。ますます見つけられそうにない。

そこで、視点を変え「魅力が見つかった」という人の意見を聞いてみる。そこで魅力だと言われているものは、寺や神社など、どこの集落にもあるような建物や、とくに飽きてしまった田んぼの広がる景色、木々などの自然、マンホールの絵柄、路地裏の様子、苔生した石垣など、どれも当たり前のようにいつも見ているものだ。しかし、その考えを打ち砕く言葉と出会った。

「時間をかけて歩いてみると、見えないものまで見えてきた。」

たかね地区まちづくり協議会

和田寿久会長

そう。答えは見えないところにあったのだ。

魅力だと感じている『もの』は人によって様々だが、共通しているのは、歩いて訪れた先で、その『もの』に関わる人、暮らし、役割、歴史など、『もの』の背景にある目には見えない物語に触れていること。

また、その『もの』に出会ったときの匂いや感触、音など、視覚だけ

に頼らず五感全体を使って、生きた情報を得ていることだ。そうした要素が日々の生活と重なり、いつもとは見え方が違ってきているのかもしれない。だから「地域を歩いて、魅力を発見」ではなく『再発見』なのだろう。

見えないものを見るために歩いてみる。

その気持ちと行動こそが、いつも近くにあった当たり前の『もの』を輝かせ、『魅力』ある存在に変えてくれるようだ。

だんだんと、歩くだけでも自分にとっての『魅力』が見つかるような気がしてきた。本当かどうかは歩いて

て確かめてみるしかない。



たかねまちづくり協議会で行ったまちあるき大作戦。目慣れしている神社も、違う一面が見えてくる。

### 「まちあるきスタイルブック」活用のすすめ

新潟県内各所で「ブラニイガタ」というまちあるきイベントを開催しているNPO法人まちづくり学校（新潟市西区）では、そのまちあるきノウハウをまとめた「まちあるきスタイルブック」を発行しています。基本の歩き方から、思いがけない視点での歩き方の提案や、歩くイベントを「おもしろく企画する」ためのポイントも書かれています。歩くことが好きな方はもちろん、歩くことの面白さが分からないという方にも是非読んでいただきたい1冊です。



<お問い合わせ先>  
NPO法人まちづくり学校  
新潟市西区青山 5-8-22  
TEL.025 (201) 9320  
FAX.025 (201) 9321  
[URL] <http://www.machikou.com>

まちにはそのまちの歩き方がある。いつもの退屈でパッとしないまちが輝く。古くて新しいまちあるきのスタイル集「まちあるきスタイルブック」

## 村上シャルソン実行委員長 渡辺展生さんに直撃！

わたなべ のぶ  
渡辺展生さん 44歳 村上市緑町

1971年生まれ、福島県いわき市出身。娘2人の父。小学校教員として上越市、阿賀町、新発田市へ赴任し、平成23年より村上市内の小学校へ勤務。仕事の傍ら、地域活動や社会貢献活動に取り組む。子育て支援団体村上 ohana ネットの副代表。平成25年に開催された第1回村上シャルソン立ち上げから実行委員として関わってきた。



村上シャルソンとは…

【渡辺】村上の街中のお店やスポーツを巡り、人との出会いや様々な体験を楽しむイベントです。

シャルソンは東京で始まり、今、全国各地で開催されています。フェイスブックやツイッターなどのソーシャルネットワークワーキングサー비스（SNS）で発信しながらマラソンをする「ソーシャルマラソン」を略して「シャルソン」です。お揃いのTシャツを着て、給水ポイントならぬ給○ポイント（給日本酒、給スイーツなど）という場所をまわり、時間内に面白い体験をして「いかに楽しめたか」が重要ポイントです。

シャルソンはランニングイベントではありませんが徒歩や車での移動も可能です。村上シャルソンでは、お子様連れでも、誰でも気軽に参加していただきたいという想いから、第2回よりSNSを使っていない人も参加できる形にしています。障がいをもつ方も、外国から来られた方も参加できるイベントを目指しています。

平成25年に第1回村上シャルソンを開催し、今年9月5日に行った第3回村上シャルソンには大人

49名、子ども21名の70名が参加してくださいました。参加者は地元村上の方が6割程度で、他は新潟市内、遠くは神奈川県、岐阜など県外の方もおられます。リピーターも多く、参加年齢層も幅広いです。

シャルソンの魅力は…

【渡辺】とにかく楽しいことです！

給○ポイントを提供してくださる協力店さんは、私たち実行委員がオススメしたいお店や場所です。普段行く機会がないお店でも、このシャルソンTシャツを来ていけば歓待してくれます。そこで、パンやデザートのご試食、珍しいものだと鍼の体験など、いつもとちよつと違った体験が得られます。自然と会話も弾み、協力店と参加者のつながりができれば、またイベント以外のおきにもそのお店を訪れたいと思うきっかけになります。また、同じ店内や移動中に同じTシャツを来た人を見かけると、知り合いでなくても挨拶をして会話がはじまります。

そうした楽しい体験や出会いをSNSで発信すると、それをきっかけに人と人のつながりができるのです。こうした連鎖反応によって、イベント当日だけでなく、あとから地域活性化がはいてくると感じています。

今後の展望は…

【渡辺】もつとシャルソンを知っていただき、一度参加して楽しさを味わってもらいたいです。

今年から、外国の方向けに英語版の地図やメニュー作成を行い、ノーマライゼーション（障がいのあるなしに関わらず平等に生活できる社会）を目指して、障がいのある方も参加できるよう、サポート体制を整えました。インターネットやSNSは怖いことだけでなく、こうした良い活用方法もあるということを子どもたちに伝えていきたいですし、村上の色が出るイベントにしたいです。

最後に、村上シャルソン参加者の皆さん、ご協賛、ご協力いただいたお店の方、実行委員の皆に感謝を伝えさせていただきます。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願い致します！



出発前、熱気溢れる集合写真



給かき氷ポイントで休憩！



笹川流れとキャンドル

## 地域団体紹介

# 笹川流れ波物語り 受入者協議会

連絡先：交流の館「八幡」

住 所：村上市勝木 1099

TEL：0254-60-5050 FAX：0254-60-5151

E-mail：sanpokuk@circus.ocn.ne.jp

- 活動分野：体験交流受入れ
- 活動地域：村上市山北地区

海あり、山あり、川ありと、自然がいっぱいの山北地区にある笹川流れ波物語り受入者協議会では、自然、伝統、食、技などの地域資源を活かした体験受入を行っています。この活動では、山北地区を訪れる人と地域の人たちが交流することで、人と人のつながりをつくること、そして、ただ訪れるだけではなく様々な体験をすること、心に残る思い出をつくり、「また山北地区へ訪れたい」というファンが増えることにつながっている他、地域内外問わず大勢の人が山北へ足を延ばすきっかけにもなっています。その体験内容は多岐にわたり、一番人気のそば打ち



たたまみコースターづくり体験

ち体験をはじめとする、いかの塩辛づくり、笹団子づくりなどの食に関わる体験、松ぼっくりで作るふくろうや、布のマスコットづくり、キャンドルづくり、地元の豊屋さんによるたたまみコースターづくりなど物作りの体験とメニューも豊富です。交流の館「八幡」を拠点としているため、子どもたちの修学旅行や体験学習など人数の多い場合でも受け入れ可能で、教育の面でも大きな役割を果たしています。地域の宝物を発掘し、それを体験プログラムとして発信していく、地域の元気づくりに欠かせない活動です。



そば打ち体験

## 編集後記

今号は歩く特集ということで、取材の際も村上市内各地を歩きまわりました。そのおかげで、実際に歩いてみなければ分からない魅力、そしてそれを見つげるための歩くイベントが数多くあることも分かりました。

歩いてみて気付くのは、一人きりで歩くのと、誰かに案内してもらったり、誰かと一緒に歩くというのでは全く見方が変わるといことです。取材ということもあり、ガイド付きで巡った場所はどこも新たな発見がたくさんありました。

一人でちよつと歩いてみようと思ったときにわざわざガイドをお願いすることはあまりないかもしれませんが、一人でも多くの方に魅力を伝えたいと熱心に活動されている方々がいらつやいますので、是非ガイドを依頼したり、ガイド付きのイベントへ参加していただきたいと思っています。

これから雪の季節。暗い空が続き憂鬱になりますが、そんな中にも見えない魅力が見つかるかもしれません。

### 〈発行元情報〉

発行 日 平成27年11月1日(年3回発行)

取材・編集 特定非営利活動法人

都岐沙羅ハートナースセンター

発行責任 村上市自治振興課

連絡先 0254(53)2111

内線331

